

乳児期の全身症状と除去食・入院治療を経て通常の学校生活へ至った小児アトピーの経過 (小児 母親 36 歳記録)

症例 ID：001-30-SR | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

生後から皮膚の乾燥、おむつかぶれがあり、生後3か月頃から顔、全身、関節部、頭部へ湿疹が広がりました。生後5〜6か月頃までに複数のステロイド外用薬を使い分けるようになりました。
除去食、複数の民間療法、漢方、入院治療を経験しました。とびひで入院した際には全身へステロイド外用と包帯処置を受けましたが、退院後に皮膚症状は再燃しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	乳児期から複数のステロイド外用薬を使用し、入院時には全身へ使用しました。
製品名	不明です。
強度	乳児期に次第に強い外用薬へ変更された経過があります。
使用期間	生後数か月から松本医院受診前まで断続的に使用しました。
中止時期	松本医院での治療開始時です。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後2日〜3か月	初期症状	おむつかぶれ、顔の発疹、全身と関節部の湿疹が出ました。
生後5〜6か月頃	外用増加	複数のステロイド外用薬を使い分けるようになりました。
乳児期	除去食	母子の厳しい食事制限により、母親は約10kg減り、子どもの体重増加も止まりました。
その後	感染・入院	とびひが全身へ広がり、入院して全身外用と包帯処置を受けました。
退院後	再燃	一日中のかゆみ、夜泣き、浸出液が続きました。
松本医院受診後	治療開始	煎じ薬、入浴、外用処置を開始しました。
治療経過中	皮膚の変化	落屑を繰り返しながら皮膚状態が整い、とびひも外用処置で軽減しました。
記録時点	生活安定	学校給食を食べ、プールに入り、一般的な洗剤を使う通常の生活を送っていました。

4. ピーク時期

ピークは、全身へとびひが広がって入院し、退院後も一日中のかゆみ、夜泣き、浸出液が続いた時期です。

5. 困りごと

- 厳しい除去食により母親の体重が約10kg減り、乳児の体重増加も止まりました。
- 全身感染による入院と包帯処置を経験しました。
- 夜間の強いかゆみと泣き声、衣類に付着する浸出液への対応が必要でした。

6. 経過のまとめ

治療経過の中で皮膚状態は大きく整い、症状は時折軽く出る程度となりました。
記録時点では学校給食を食べ、プールに入り、一般的な衣類・洗剤を使用する通常の学校生活を送っていました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。